

ジャイナ教在家信者の 〈布薩〉に対する違反行為

堀 田 和 義

はじめに

ジャイナ教には「シュラーヴァカ・アーチャーラ文献 (the śrāvakācāra texts)」と呼ばれる文献群が残されており、それらには5つの小誓戒 (aṇuvrata) とそれを補助する3つの徳戒 (guṇavrata), 4つの学習戒 (śikṣāvrata) を合わせた12の誓戒を中心として、在家信者の行動規範が詳しく記されている。各誓戒に対しては、“aticāra” と呼ばれる違反行為が規定されているが⁽²⁾、それらには宗派、文献ごとに相違が見られる。本稿では、学習戒に含まれ、節目の日に世間的な行いを離れて断食を中心とした精進潔斎を行う〈布薩〉の誓戒に焦点を当て、その違反行為の特徴や宗派、文献ごとに見られる同異などを一次文献の記述に基づいて明らかにする⁽³⁾。

この分野の先行研究としては、これまで Williams [1963] が最も信頼できるものとされてきたが⁽⁴⁾、誤った記述も多く、また出版から50年以上が経過しており、新たに参照可能になった文献もあることから、見直すべき時期が来ている。本稿では、最初に〈布薩〉の違反行為に関する Williams [1963] の所論を確認し、それを一次文献と照らし合わせつつ、白衣派文献に見られる違反行為を検討し、その後⁽⁵⁾に *Tattvārthasūtra* (以下, TAAS) と空衣派文献とに見られる違反行為を検討する。

1. 〈布薩〉の違反行為と先行研究の所論

〈布薩〉には、誓戒 (vrata) としてのものと 11 階梯 (pratimā) としてのものがあるが、違反行為は誓戒のみに規定されており、11 階梯には規定されていない⁽⁶⁾。本稿では、この〈布薩〉の違反行為を検討するが、まずは先行研究の所論を確認しておきたい。Williams [1963] の要点は以下の 2 点にまとめられる⁽⁷⁾。(1) 〈布薩〉の違反行為のひとつに、白衣派の伝統的な分類 (下記の〈タイプ A⁽⁸⁾〉) がある (以下, Williams 説(1))。(2) もうひとつの分け方に、空衣派と Haribhadra (白衣派) の *Dharmabindu* (以下, DhB), Hemacandra (白衣派) の *Yogaśāstra* (以下, YŚ) が採用する分け方 (下記の〈タイプ B〉) がある (以下, Williams 説(2))。

〈タイプ A〉: (1) 寢床を確認しない (apratilekhitaśayyā), (2) 排泄場所を確認しない (apratilekhitasthaṇḍila), (3) 寢床を拭い清めない (apramārjitaśayyā), (4) 排泄場所を拭い清めない (apramārjitaśthaṇḍila), (5) [〈布薩〉を] 正しく守らない (samyagananupālana)

〈タイプ B〉: (1) 目視せず、拭い清めもせずに排泄する (apratyupekṣitāpramārjito-tsarga), (2) 目視せず、拭い清めもせずに物を取ったり、置いたりする (apratyupekṣitāpramārjitādānanikṣepa), (3) 目視せず、拭い清めもせずに敷物を敷く (apratyupekṣitāpramārjitasamstāra), (4) 軽視 (anādara), (5) 失念 (smṛtyanupasthāpana)

Williams [1963] はこの枠組みに基づき、Siddhasena Ganin をはじめとする学僧の説を引きながら各項目を解説するが、いくつかの問題点がある。まず、〈タイプ A〉に関しては、「白衣派の伝統的な分類」と述べるのみで典拠が提示されておらず、さらには、伝統的でない分類はどうなっているのかが明らかでない。〈タイプ B〉に関しても、実際には空衣派の分類と一致しない部分が見られる、各項目の順序や内容に細かい出入りがあるにも関わらずそれに言及

していない、多くの文献を参照していながらも、言及の仕方が恣意的であるなどといった点を指摘することができる。

以下においてはこれらの点を克服すべく、Williams [1963] の所論と一次文献とを可能な限り照らし合わせて検討することにより、その不備を補い、必要に応じて修正を加えていく。

2. 白衣派文献に見られる違反行為—〈タイプ A〉の検討—

まずは、〈タイプ A〉を検討する。このタイプを Williams [1963] では「白衣派の伝統的な分類 (one traditionally Śvetāmbara)」と呼ぶが、典拠は提示されていない。一般的に「白衣派の伝統的な」云々と言った場合、我々が想起するのは白衣派聖典であろう。そこで、白衣派聖典の中でも、在家信者の行動規範を論じた *Uvāsagadasāo* における〈布薩〉の違反行為の分類を見ておきたい。*Uvāsagadasāo* では、(1)寝床としての敷物を確認しない、またはきちんと確認しない、(2)寝床としての敷物を拭い清めない、またはきちんと拭い清めない、(3)大小便をする地面を確認しない、またはきちんと確認しない、(4)大小便をする地面を拭い清めない、またはきちんと拭い清めない、(5)〈布薩〉を正しく守らない、という5種類を挙げる。⁽⁹⁾これらは大筋で〈タイプ A〉と一致するが、列挙する順序や細かい表現は異なる。〈タイプ A〉を基準にすると、*Uvāsagadasāo* は(1)(3)(2)(4)(5)の順であり、また、*Uvāsagadasāo* の「きちんと確認しない (duppaḍilehiya)」と「きちんと拭い清めない (duppamajjiya)」という表現が〈タイプ A〉には欠けている。

一方、Williams 説(1)では言及されていない白衣派のシュラーヴァカ・アーチャーラ文献には、どのような分類が見られるだろうか。*Navapadaprakaraṇa* (以下、NPP) では、(1)確認することなしに敷物を広げる、(2)拭い清めることなしに敷物を広げる、(3)確認することなしに排泄する、(4)拭い清めることなしに排泄する、(5)正しく守らない、という5つを挙げる。⁽¹⁰⁾これを〈タイプ A〉と比べると、順序は異なるものの項目は一致している。*Uvāsagadasāo* が(1)~(4)において“appaḍilehiya-”には“duppaḍilehiya-”を、“appamajjiya-”には“duppamajjiya-”

を並列するのに対し、NPP はそれぞれ前者にしか言及しない点でも〈タイプ A〉に近い。NPP の注釈文献 *Navapadaprakaraṇavṛtti* (以下、NPPV) も同様の分類を採用するが、著者 Yaśodeva は白衣派聖典の記述との整合性を図るために “*duṣpratyupekṣa*”, “*duṣpramāṛjita*” を補うよう述べている。⁽¹¹⁾

その他の用例としては、*Śrāvakaṣrajñapti* (以下、ŚrPr) に、(1)寝床、敷物を確認しない、またはきちんと確認しない、(2)寝床、敷物を拭い清めない、またはきちんと拭い清めない、(3)排泄場所を確認しない、またはきちんと確認しない、(4)排泄場所を拭い清めない、またはきちんと拭い清めない、(5)正しく守らない、という分類が見られる。⁽¹²⁾ ただし、この記述では、〈タイプ A〉で寝床と排泄場所の両方に関して述べられていた「確認していない、またはきちんと確認していない」(*appadīduppaḍāḷehiya*) という限定要素が寝床に関してのみ用いられ、「拭い清めていない、またはきちんと拭い清めていない」(*apamajjiyadupamajjiya*) という限定要素が排泄場所のみに用いられているようにも読める。その場合は、〈タイプ A〉で2つに分けられていたものがそれぞれひとつにまとめられて合計3つとなるが、ここでは *Śrāvakaṣrajñaptivṛtti* (以下、ŚrPrV) に従って5つと解する。

しかしながら、*Śrāddhadinaḅṛtya* (以下、ŚrDK) の次のような用例は3つと解するしかないように思われる。ŚrDK では、〈布薩〉の違反行為として、(1)敷物に関する行いを怠る、(2)排泄に関する行いを怠る、(3)食物を享受する、という3つを挙げている。⁽¹³⁾ ここでも、〈タイプ A〉で2つに分けられていたものがそれぞれひとつにまとめられており、(3)は「〈布薩〉を正しく守らない」に相当すると考えられる。ただし、注釈文献 *Śrāddhadinaḅṛtyavṛtti* (以下、ŚrDKV) はそれを嫌ったのか、この3つを、(1)目で確認していない、またはきちんと確認していない寝床と敷物に座ったりする、(2)塵払いなどで拭い清めていない、またはきちんと拭い清めていない寝床と敷物に座ったりする、(3)排泄などの場所を目で確認していない、またはきちんと確認しない、(4)排泄などの場所を塵払いなどで拭い清めていない、またはきちんと拭い清めない、(5)〈布薩〉の規定に反する、つまり正しく守らない、という5つと解する。⁽¹⁴⁾

3. TAAS と空衣派文献に見られる違反行為—〈タイプ B〉の検討—

次に、〈タイプ B〉を検討する。このタイプは「空衣派と Haribhadra, Hemacandra が採用するもの」で、「*Tattvārthasūtra* が導入して、Haribhadra, Hemacandra が借用したもの」と述べられている通り、列挙する項目や順序が最も近いのは TAAS の文言である。そこで、先に TAAS とその注釈文献に見られる違反行為について検討し、その後で空衣派文献の記述を見ていくことにする。

3.1. TAAS とその注釈文献に見られる違反行為

Williams 説(2)が空衣派の違反行為の分類として提示する〈タイプ B〉は、TAAS の次のスートラに対応している⁽¹⁵⁾。(下線は筆者によるもので、両派の間で文言が異なる箇所)。

白衣派：

apratyavekṣitāpramārjītotsargādānanikṣepasamstāropakramaṇānādarasmṛtyanupasthāpanāni

空衣派：

apratyavekṣitāpramārjītotsargādānasamstaropakramaṇānādarasmṛtyanupasthānāni

〈タイプ B〉の(2)に相当する部分が大きく異なり、白衣派では「取ること (ādāna)」に「置くこと (nikṣepa)」が並列されるが、空衣派では「取ること」のみとなっている。その他にも、「敷物」の原語が白衣派では“samstāra”，空衣派では“samstara”となっており、「失念」の原語が白衣派では“smṛtyanupasthāpana”，空衣派では“smṛtyanupasthāna”となっている。以上を踏まえて〈タイプ B〉を見ると、(2)の原語として白衣派の TAAS と対応する“apratyavekṣitāpramārjītādānanikṣepa”が挙げられており、これを空衣派の見解とするのは厳密さに欠ける。

また、TAAS に対しては両派で多くの注釈が著されたが、それらにおいても、

TAASと同じ項目、順序が採用される。どちらの宗派の注釈文献も、その宗派の最も古い注釈、すなわち、白衣派はUmāsvāti注(以下、T(U))、空衣派はPūjyapāda注(以下、T(P))の強い影響下にあり、基本的な解釈はそれらに忠実である。その他に、Williams [1963] で述べられていないTAASの諸注釈に見られる大きな解釈の相違としては、T(P)、およびその影響下にあるAkalaṅka注(以下、T(A))、Bhāskaranandin注(以下、T(Bh))、Vidyānandin注(以下、T(V))、Śrutasaṅgāra注(以下、T(S))が(4)の「軽視」を「必須行為に対する軽視(āvaśyakeṣv anādharaḥ)」と解するのに対して、白衣派ではHaribhadra注(以下、T(H))が「〈布薩〉に対する軽視(anādharaḥ paṣadhopavāsaṃ prati)」と述べている点を挙げることができる。

3.2. 空衣派文献に見られる違反行為

次に、空衣派文献の分類とそれを採用しているとされる白衣派のHaribhadra、Hemacandraの分類とを見ていく。まず、空衣派文献で〈タイプB〉と同じ項目、順序を採用するのは、Cāritrasāra⁽¹⁶⁾(以下、CS)、Lāṭisamhitā⁽¹⁷⁾(以下、LS)、Dharma-saṃgrahaśrāvakaṅcāra⁽¹⁸⁾(以下、Śr(M))、Prašnottaraśrāvakaṅcāra⁽¹⁹⁾(以下、Śr(S))の4つに限られ、空衣派の代表的な見解と見なすことはできない(その他のタイプについては後述)。また、これらも〈タイプB〉とは若干異なり、白衣派と空衣派のTAASの違いと同様、いずれの文献も、(2)は「物を取ること」のみで、「置くこと」に言及しない。

一方、HaribhadraのDhB⁽²⁰⁾とHemacandraのYS⁽²¹⁾はWilliams [1963] の指摘通り、同じ項目を同じ順序で列挙し、注釈文献Dharmabinduṛṭti(以下、DhBV)とYogaśāstravṛtti(以下、YŚV)もこれに従う。DhBとDhBVでは、(2)が「物を取ること」だけでなく、「置くこと」も並置され、YŚは「物を取ること」だけを挙げるものの、自注のYŚVで「置くこと」も暗示されているとしており、ここでもTAASに見られる両派の違いとの一致が認められる。また、HemacandraはUvāsagadasāoの記述も引用しており、白衣派の伝統的な見解を知っていたにもかかわらず、空衣派と共通するこのタイプを採用していたとい

う点は興味深い。

3.3. その他の空衣派文献に見られる順序、内容の同異

空衣派のシュラーヴァカ・アーチャーラ文献で〈タイプB〉とほぼ一致するのは、先に挙げた4つだけであり、空衣派文献の間でも順序や内容に細かい相違が見られる。以下に、〈タイプB〉を基準として、順序、内容の同異を一覧表にしておく。

文献名	順序	備考
DhR ⁽²²⁾	(2)×(3)×(1)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。
PASU ⁽²³⁾	(2)×(3)×(1)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。※ DhR とほぼ同文
YTC ⁽²⁴⁾		(1)目視しないこと, (2)拭い清めないこと, (3)悪しき行いをすること, (4)悪しき考えを抱くこと, (5)必須行為を怠っていることの5つを挙げ, 他の文献と大きく異なる。
RK, ⁽²⁵⁾ RKT	(2)×(1)×(3)×(4)×(5)	(2)は「取ること (grahaṇa)」のみ。KAT に引用される。
Śr(A) ⁽²⁶⁾	(1)×(2)×(3)×(4)×(5)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。目視のみで, 拭い清めることには言及しない。(4)は「断食に対する軽視 (upavāse anādarah)」、(5)は「記憶の変動 (smṛtyasamavastha)」と表現する。
Śr(AD) ⁽²⁷⁾	(1)×(2)×(3)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。(4)を「記憶 [の欠如] により食事を摂ること」、(5)を「疑いにより食事を摂ること」とする。
Śr(PN) ⁽²⁸⁾	(2)×(3)×(1)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。
Śr(B) ⁽²⁹⁾	(2)×(1)×(3)×(4)×(5)	「確認せずに (avikṣya)」とのみ述べて, 拭い清めることに言及しない。(2)が「ものを置くこと (vastumocana)」となっており, 代わりに排泄への言及がない。
SDhA ⁽³⁰⁾	(2)×(3)×(1)×(4)×(5)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。(5)が「非集中 (anai-kāgrya)」となっている。 ⁽³¹⁾
SRS ⁽³²⁾	(1)×(2)×(3)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。Śr(A)と同じく Amitagati の著作とされるが, 違反行為の内容が異なる。
HP ⁽³³⁾	(1)×(2)×(3)×(5)×(4)	(2)は「取ること (ādāna)」のみ。(5)が「非集中 (anai-kāgrya)」となっている。また目視のみで, 拭い清めることには言及しない。

以上、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における〈布薩〉の違反行為を見つけたが、(1)~(3)が〈布薩〉に関する具体的な注意点であるのに対し、(4)(5)は〈布薩〉の誓戒そのものに関わるものとなっている。他の誓戒の違反行為もすべて5つで統一されており、この“5”という点については、数合わせ的な面が強い。また、本稿では検討することができなかったが、〈布薩〉の違反行為は、密接な関連のあるサーマーイカ行のものをモデルとして⁽³⁴⁾している。

4. む す び

以下に、本稿における考察によって明らかになった点を簡潔にまとめておく。

- ・〈タイプA〉に近いのはNPPであり、白衣派聖典 *Uvāsagadasāo* と完全には一致しないため、これを白衣派の伝統説と呼ぶ点には再考の余地がある。
- ・白衣派のシュラーヴァカ・アーチャーラ文献の ŚrPr, ŚrDK などの記述も *Uvāsagadasāo* と完全には一致しないが、それらの注釈文献は *Uvāsagadasāo* に合わせるような形で解釈している。
- ・〈布薩〉の違反行為に関する TAAS のストラの伝承は白衣派と空衣派とで若干異なっているが、空衣派、および Haribhadra, Hemacandra の分類として挙げられている〈タイプB〉の文言は白衣派の TAAS に対応しており、空衣派の説として挙げるのは厳密さに欠ける。
- ・白衣派と空衣派との TAAS の間に見られる「ものを置くこと (nikṣepa)」という文言の有無に関する相違は、両派のシュラーヴァカ・アーチャーラ文献の記述にも確認できる。
- ・空衣派のシュラーヴァカ・アーチャーラ文献でも〈タイプB〉と項目、順序がほぼ一致するのは4つに限られており、空衣派文献の記述も一様ではない。

【略号表】

UDV Abhayadeva: *Saptamāṅga* (= *Uvāsagadasāo*) *vivarāṇa* (Bibliotheca Indica no.105), Calcutta, 1885. US Padmanandin: *Upāsakasamśkāra* in *Pañcaviṃśati* (Jīvarāja Jaina Granthamālā no.10), Solāpūr, 1962. KA Kārttikeya: *Dvādaśānupreṣā* (Śrīmad Rājacandra Jaina Śāstramālā), Agās, 1960. KAT Śubhacandra: *Dvādaśānupreṣāṭīkā* → KA CP

Kundakunda: *Cāritraprābhṛta* in *Aṣṭapāhuḍa*, Sonāgir, 1989-90. **CPT** Śrutasaḡara: *Cāritraprābhṛtaṭīkā* → **CP CS** Cāmuṇḡarāya: *Cāritrasāra* → **ŚĀS1 T(A)** Akalaṅka: *Tattvārthasūtra* (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā Saṃskṛta Grantha no.10, 20) 5th ed, New Delhi, 1999. **T(U)** Umāsvāti: *Tattvārthasūtra* (Bibliotheca Indica), Calcutta, 1903. **T(P)** Pūjyapāda: *Tattvārthasūtra* (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.13) 2nd ed, Vārāṅasī, 1971. **T(Bh)** Bhāskaranandin: *Tattvārthasūtra* (University of Mysore, Oriental Library Publications, Sanskrit Series no.84), Mysore, 1944. **T(V)** Vidyānandin: *Tattvārthasūtra* (Saraswati Oriental Research Sanskrit Series no.16), Ahmedabad, 1998. **T(Ś)** Śrutasaḡara: *Tattvārthasūtra* (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.4) 2nd ed, New Delhi, 1999. **T(S)** Siddhasenagaṅin: *Tattvārthasūtra* (Śreṣṭhi Devacandra Lālabhāī Jainapustakodhāra no.67, 76), Bombay, 1926. **T(H)** Haribhadra: *Tattvārthasūtra*, Surat, 1936. **Doha Sāvayadhammadohā** → **ŚĀS1 DVU** Padmanandin: *Deśavratodyotana* in *Pañcaviṃṣati* (Jīvarāja Jaina Granthamālā no.10), Solāpūr, 1962. **DhB** Haribhadra: *Dharmabindu*, Bombay, 1993. **DhBV** Municandra: *Dharmabinduṽṛtti* → **DhB DhR** Jayasena: *Dharmaratnākara* (Jīvarāja Jaina Granthamālā no.24), Solāpūr, 1974. **NPP** Devagupta: *Navapadaprakaraṇa*, Bombay, vi°saṃ°2045. **NPPV** Yaśodeva: *Navapadaprakaraṇavṛtti* → **NPP PAA** Govinda: *Puruṣārthāmuśāsana* → **ŚĀS3 PASU** Amṛtacandra: *Puruṣārthasiddhyupāya* (Śrīmad Rājacandra Jaina Śāstramālā no.7), Agās, 1977. **PP** Raviṣeṇa: *Padmapurāṇa* (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.21), New Delhi, 2003. **PRP** Umāsvāti: *Praśamaratiprakaraṇa* → **T(U) BhDhU** Jinadeva: *Bhavyadharmopadeśopāsakādhyayana* → **ŚĀS3 BhS(D)** Devasena: *Prākṛtabhāvasaṃgraha* → **ŚĀS3 BhS(V)** Vāmadeva: *Saṃskṛtabhāvasaṃgraha* → **ŚĀS3 MP** Jinasena: *Mahāpurāṇa* → **ŚĀS1 YTC** Somadeva: *Yaśastilakacampū* (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.28), Vārāṅasī, 1964. **YŚ** Hemacandra: *Yogaśāstra*, Delhi, 2009. **YŚV** Hemacandra: *Yogaśāstravṛtti* → **YŚ RK** Samantabhadra: *Ratnakaraṇḡasrāvākācāra* (Māṅikacandra Digambara Jaina Granthamālā no.24), Bombay, vi°saṃ°1982. **RKT** Prabhācandra: *Ratnakaraṇḡasrāvākācāraṭīkā* → **RK RM** Śivakoṭi: *Ratnamālā* → **ŚĀS3 RS** Kundakunda: *Rayaṅasāra*, Indaur, 1974. **LS** Rājamalla: *Lāṭisamhitā* (Māṅikacandra Digambara Jaina Granthamālā no.26), Bombay, vi°saṃ°1984. **VC** Jaṭāsiṃhanandin: *Varāṅgacarita* (Bhāratavarṣīya Anekānta Vīdvat Pariṣad no.24), Vārāṅasī, 1996. **ŚĀS1** Śrāvākācārasaṃgraha vol.1 (Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga no.27) Solāpūr, 1976. **ŚĀS2** Śrāvākācārasaṃgraha vol.2 (Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga no.28) Solāpūr, 1976. **ŚĀS3** Śrāvākācārasaṃgraha vol.3 (Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga no.29) Solāpūr, 2003. **Śr(A)** Amitagati: *Amitagatiśrāvākācāra* → **ŚĀS1 Śr(AD)** Abhradeva: *Vratodyotanaśrāvākācāra* → **ŚĀS3 Śr(U)** Umāsvāmin: *Umāsvāmiśrāvākācāra* → **ŚĀS3 Śr(G)** Guṇabhūṣaṇa: *Guṇabhūṣaṇaśrāvākācāra* → **ŚĀS2 Śr(PN)** Padmanandin: *Śrāvākācārasāroddhāra*

→ ŚĀS3 Śr(PP) Pūjyapāda: Śrīpūjyapādaśrāvākācāra → ŚĀS3 Śr(B) Brahmanemiddatta: Dharmopadeśapīyūṣavarṣaśrāvākācāra → ŚĀS2 Medhāvin: Dharmasaṃgrahaśrāvākācāra → ŚĀS2 Śr(V) Vasunandin: Vasunandiśrāvākācāra (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Prākṛta Grantha no.3), Vārāṇasī, 1952. Śr (VS) Vratasāraśrāvākācāra → ŚĀS3 Śr(S) Sakalakīrti: Praśnottaraśrāvākācāra → ŚĀS2 ŚrDK Devendra: Śrāddhadinakṛtya, Bombay, vi°sam°2045. ŚrDKV Devendra: Śrāddhadinakṛtyavṛtti → ŚrDK ŚrPr Umāsvāti: Śrāvakaprajñapti (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Prākṛta Grantha no.8) 2nd ed, New Delhi, 1999. ŚrPrV Hariḥhadra: Śrāvakaprajñaptivṛtti → ŚrPr SDhA Āśādhara: Sāgaradharmāmṛta (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.47), Vārāṇasī, 2000. SRS Amitagati: Subhāṣitaratnasamdhoha (Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga no.31) Solāpūr, 1977. HP Jinasena: Harivaṃśapurāṇa (Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha no.27), Vārāṇasī, 1962.

本稿で使用したシュラーヴァカ・アーチャーラ文献の多くは入手困難なものばかりであるが、都城工業高等専門学校の藤永伸先生、筑紫女学園大学の宇野智行先生のご厚意によって参照させていただくことができた。ここに記してお二人に感謝申し上げたい。

注

- (1) この表現に関しては、Jaini[1979]p.161等を参照。
- (2) 〈布薩〉の誓戒に関する規定には、aticāra (テキストによっては aṭicāra) と同様に「違反」「逸脱」や「過失」「汚れ」等を意味する atikrama (T(V), Śr(S)), dūṣaṇa (Śr(AD)), doṣa (LS, Śr(S)), mala (SRS), vyatikrama (Śr(B), HP), vyatilaṅghana (RK) などの語が見られる。他にも、「[5つの違反行為]が、〈布薩〉を妨害する (vighnanti)」(YTC), 「[5つの違反行為]を放棄すべきである (jahyād)」(SDhA) というように動詞で表現するものや、「[〈布薩〉]を破壊する (-ghna)」(DhR) というように複合語の形で表現するものも見られる。
- (3) 本稿ではプラークリット語の posaha に由来するサンスクリット語の proṣadha, poṣadha, pauṣadhaなどを、仏教語として定着している布薩との区別を図るために〈 〉を付けて〈布薩〉と表記する。シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における〈布薩〉の原語に関しては、堀田 [2014]を参照。
- (4) その他の先行研究としては、Sogani [1967]の第4章、Bhargava [1968]の第5章の〈布薩〉の規定に関する記述を参照。ただし、これらの研究で在家信者の行動規範を扱う部分は限られている。
- (5) *Tattvārthasūtra*の本文は白衣派、空衣派の両派において伝承されてきたが、ストラ数や文言に若干の違いが見られる。本稿においてTAASと記した場合は、宗派を特定することなしに *Tattvārthasūtra*を指す。

- (6) この違いは、誓戒としての〈布薩〉が純粹に在家信者の実践であるのに対して、11 階梯としての〈布薩〉は半ば世俗を離れた状態で実践されるものであるという点に起因する。また、誓戒としての〈布薩〉の違反行為に言及しない文献も見られるが、それらにはいくつかのタイプがあると考えられる。当然のことながら、Śr(G), Śr(V) などのように〈布薩〉を誓戒に含めない文献は言及しない。MP, RS のように 12 誓戒に言及しない文献なども同様であるが、これらはむしろ少数派に属する。

その他のもので〈布薩〉の違反行為に言及しない文献としては、US (12 誓戒には言及するが、その内訳が記されていないため、〈布薩〉が含まれるのかどうかは不明。〈布薩〉に相当するものは苦行 (tapas) として言及されており、そこでは違反行為に触れていない)、KA, CP, CPT, Doha, DVU, PAA, PP, PRP, BhDhU, BhS(D), BhS(V), RM, VC, Śr(U), Śr(PP), Śr (VS) (これもまた 12 誓戒には言及するが、その内訳が記されていないため、〈布薩〉が含まれるのかどうかは不明。〈布薩〉に相当すると思われるものは言及されているが、そこでは違反行為に触れていない) といったものを挙げることができる。〈布薩〉の違反行為に言及しないこれらの文献の共通点を見出すことは困難であるが、作品自体が比較的短い、もしくは作品は大部であっても在家信者の行動規範に関する説明が簡潔なものが多いという傾向が見られる。

- (7) Williams [1963] pp.146-147.
- (8) 原語も便宜的に Williams [1963] に従うが、いかなる文献に基づくのかは提示されていない。
- (9) tayānantaram ca ṇaṃ posahovavāsassa samaṇovāsaṇaṃ paṃca aiyārā jāṇiyavvā na samāyariyavvā / taṃ jahā / appaḍilehiyaduppaḍilehiyasijjāsamthāre appamajjiyaduppa-majjiyasijjāsamthāre appaḍilehiyaduppaḍilehiyauccārāpāsavanabhūmī appamajjiyaduppama-jjiyauccārāpāsavanabhūmī posahovavāsassa sammam aṇaṇupālaṇayā / *Uvśagadasāo* 1.42. 和訳に関しては、河崎 [2003] p.184 を参照。注釈文献の UDV もこの分類に従う。
- (10) samthāra thaṃḍile 'vi ya appaḍilehāpamajjie do do / sammam ca aṇaṇupālaṇam aiyāre paṃca vajjejjā // NPP 117
- (11) apratyupekṣāpramāṛjite dvau dvāv aticārau bhavata iti gamyate, pratyupekṣaṇam pratyupekṣā — cakṣurnirīkṣaṇam na vidyate sā yatra tad apratyupekṣam tac cāpramāṛjitaṃ ca — vastrāicalādinākṛtapramāṛjanam apratyupekṣāpramāṛjitaṃ tasmin apratyupekṣāpra-māṛjite, anena ca duṣpratyupekṣaduṣpramāṛjite 'pīti draṣṭavyam / NPPV on NPP 117
- (12) appaḍiduppaḍilehiyasijjāsamthārayam vivajjijjā / apamajjiyadupamajjiya taha uccārāibhūmiṃ ca // taha ceva ya ujjutto vihiṃ iha posahammi vajjijjā / sammam ca aṇaṇupālaṇam āhārāisu savvesu // ŚrPr 323-324
- (13) samthāruccāravihīpamāya taha ceva bhoyaṇābhoe / posahavivivarīe taie sikkhāvae niṃde // ŚrDK29
- (14) śayyāyāṃ samstāraḥ ca cakṣuṣā apratyupekṣitaduṣpratyupekṣite upaveśanādi kurvataḥ prathamam 'ticāraḥ evaṃ rajoharaṇādīnā apramāṛjitaduṣpramāṛjite dvitīyaḥ evam

uccārādibhūmīnām api dvāv aticārau, atah procyate tathaiva bhavaty anābhoge — anupayuktāyām satyām ity aticāracatuṣṭayam tathā pauśadhavidhiviparītaḥ — pośadhavidheś caturvidhasyāpi viparītaḥ — asamyakpālanarūpaḥ, yathā kṛtapauśadhasya kṣudādyārtasya pauśadhe pūrṇe śvaḥ svārtham āhārādi ittham ittham kariṣye ityādi dhyāyataḥ pañcamo 'ticāraḥ, pāthāntaram vā “bhoyaṅbhoi” tti bhojane — āhāre upalakṣaṇatvād dehasatkārādau ābhogaḥ — upabhogaḥ, kadā pauśadham pūrṇam bhaviṣyati yenāham bhokṣye ityāditatparateti pañcamaḥ / ŚrDKV on ŚrDK 29. ある文献に違反行為に関する記述がある場合、その注釈文献は基本的にその解釈に準じることが多いが、時にこのような現象が見られる。例えば、先に見た ŚrPr の場合も違反行為が3つであると読むこともできるが、注釈文献 ŚrPrV は、明らかに5つと解している。

- (15) 当該スートラの番号は、白衣派では 7.29, 空衣派では 7.34 となる。
- (16) prośadhopavāsasya pañcātīcārā bhavanti — apratyavekṣitāpramāṅjitotsargaḥ apratyavekṣitāpramāṅjitādānaḥ apratyavekṣitāpramāṅjitasamstaropakramaṇam anādarāḥ smṛtyanupasthānaḥ ceti / CS p.247.
- (17) apratyavekṣitāpramāṅjitotsargādānaśamstaropakramaṇānādarāsmṛtyanupasthānāni // LS 58
- (18) anavekṣitāpramāṅjitotsargādānaśamstarāḥ / anāḍṛtismṛtyanupasthāne tasyāticāraḥ // Śr(M) 4.79
- (19) adṛṣṭāmṛṣṭavyutsargādānaśamstarānāni syuḥ / prośadhe 'nādarāḥ proktas tataś cāsmaraṇam bhavet // Śr(S) 19.67
- (20) apratyavekṣitāpramāṅjitotsargādānanikṣepasaṁstāropakramaṇānādarāsmṛtyanupasthāpanāni // DhB 3.36
- (21) utsargādānaśamstārā anavekṣyāpramāṅjya ca / anādarāḥ smṛtyanupasthāpanam ceti pośadhe // YŚ 3.117
- (22) anavekṣitāpramāṅjitaḥ ādānaḥ saṁstaras tathotsargaḥ / smṛtyanupasthānaḥ anādarāś ca pañcopavāsaghnāḥ // DhR 16.5.6
- (23) anavekṣitāpramāṅjitaḥ ādānaḥ saṁstaras tathotsargaḥ / smṛtyanupasthānaḥ anādarāś ca pañcopavāsasya // PASU 192 (≅ DhR 16.5.6)
- (24) anavekṣāpratīlekhanaduṣkarmārambhādurmanaskārāḥ / āvaśyakaviratīyutāś caturtham ete vinighnanti // YTC 40.756
- (25) grahaṇavisargāstaraṇāny adṛṣṭāmṛṣṭāny anādarāsmaraṇe / yat prośadhopavāśavyatīlaṅghanaḥ pañcakaḥ tad idam // RK 110
- (26) jñeyā gatopayogā utsargādānaśamstarakavidhāḥ / upavāśe munimukhyair anādarāḥ smṛtyasamavasthāḥ // Śr(A) 7.12
- (27) pramāṅjanavinirmuktotsargādānaś ca saṁstare / āhāraḥ smṛtiśaṅkābhyām upavāśasya dūṣaṇam // Śr(AD) 454
- (28) ādānaḥ saṁstarotsarga anavekṣyāpramāṅjyaḥ ca / smṛtyanupasthāpanam pañcānādarāḥ prośadhavrate // Śr(PN) 3.320
- (29) avīkṣya grahaṇam vastumocanāstaraṇe tathā / anādarāsmṛti pañca prośadho 'pi

- vyatikramāḥ // Śr(B) 4.141
- (30) grahaṇāstarāṇotsargāṇavekṣāpamārjanān / anādaram anaiḥkāgryam api jahyād iha vrate // SDhA 5.40
- (31) LS では、失念と非集中とが同義語とされる。syāt smṛtyanupasthānaṃ dūṣaṇaṃ proṣadhasya tat / anekāgryaṃ tad eva syāl lakṣaṇād api lakṣaṇaṃ // LS 5.210
- (32) adṛṣṭāmārjītotsargādānaśamstārakakriyāḥ / asmṛtvānādarau pañca proṣadhasya malāḥ matāḥ // SRS 31.97
- (33) anavekṣya malotsargādānaśamstaraśamkramāḥ / syuḥ proṣadhōpavāsasya te 'naikāgryam anādaraḥ // HP 58.67
- (34) Williams [1963] p.147.

【参考文献】

Bhargava, Dayanand

[1968] *Jaina Ethics*, Delhi.

Hoernle, A. F. Rudolf

[1888] *The Uvāsagadasāo or the Religious Profession of an Uvāsaga Expounded in Ten Lectures Being the Seventh Anga of the Jainas*, vol.II, Translation, Bibliotheca Indica no.105, Calcutta.

Jaini, P. S.

[1979] *The Jaina Path of Purification*, Berkley & Los Angeles.

Sogani, Kamal Chand

[1967] *Ethical Doctrines in Jainism*, Jīvarāja Jaina Granthamālā no.19, Solāpūr.

Williams, R

[1963] *Jaina Yoga: A Survey of the Mediaeval Śrāvākācāras*, London Oriental Series 14, London.

河崎 豊

[2003] 『白衣派ジャイナ教聖典に現れる在家信者に関する記述についての基礎的研究』(大阪大学提出課程博士論文)

堀田和義

[2014] 「シュラーヴァカ・アーチャーラ文献における〈布薩〉の原語をめぐる諸問題」, 『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』pp.469-475.